

ロシア連邦政府

決定

2025年7月31日付第1144号

モスクワ

防衛目的のためにはもはや不要のプルトニウムであると宣言されたプルトニウムの処分、その管理およびこの分野における協力に関するロシア連邦政府とアメリカ合衆国政府間の協定、ならびに同協定に附属する議定書の廃棄通告の提起について

連邦法「ロシア連邦の国際条約について」第36条第2項にもとづき、ロシア連邦政府は以下を決定する：

1. モスクワにおいて2000年8月29日に、ワシントンにおいて2000年9月1日に署名された、防衛目的のためにはもはや不要のプルトニウムであると宣言されたプルトニウムの処分、その管理およびこの分野における協力に関するロシア連邦政府とアメリカ合衆国政府間の協定、2006年9月15日にワシントンにおいて署名された、防衛目的のためにはもはや不要のプルトニウムであると宣言されたプルトニウムの処分、その管理およびこの分野における協力に関するロシア連邦政府とアメリカ合衆国政府間の協定に附属する議定書、ならびに2010年4月13日にワシントンにおいて署名された、防衛目的のためにはもはや不要のプルトニウムであると宣言されたプルトニウムの処分、その管理およびこの分野における協力に関するロシア連邦政府とアメリカ合衆国政府間の協定に附属する議定書の廃棄通告を提起することを承認する。

2. ロシア連邦議会国家院（下院）に、連邦法案「防衛目的のためにはもはや不要のプルトニウムであると宣言されたプルトニウムの処分、その管理およびこの分野における協力に関するロシア連邦政府とアメリカ合衆国政府間の協定、ならびに同協定に附属する議定書の廃棄通告について」を提出する。

3. ロシア連邦外務次官セルゲイ・アレクサンドロヴィチ・リャプコフを、連邦法案「防衛目的のためにはもはや不要のプルトニウムであると宣言されたプルトニウムの処分、その管理およびこの分野における協力に関するロシア連邦政府とアメリカ合衆国政府間の協定、ならびに同協定に附属する議定書の廃棄通告について」をロシア連邦議会両院が審議するに際してのロシア連邦政府の正式代表に任命する。

ロシア連邦政府議長      ミハイル・ミシュスチン